

1999年度 産業社会学会（教員・院生）共同研究会一覧

回 日 時	テーマおよび報告者
第1回（5月14日）	“Global citizenship and environment” John Urry氏（英国ランカスター大学教授）
第2回（7月9日）	シンポジウム「市民のメディア参加—パブリック・アクセスを考える」 コーディネーター：鈴木みどり教授 パネリスト：津田正夫氏（東邦学園短期大学教授） 吉富志津代氏（FMわいわい／多文化共生センター神戸） 柳澤伸司助教授
第3回（7月16日）	「内蒙古の持続可能な発展を目指して」 劉 建親氏（内蒙古自治区科学技術情報研究所主任） 王 和平氏（内蒙古自治区解放軍公室総合処長）
第4回（10月15日）	「植民地の金基鎮とその周辺知識たち」 李 修京氏（大学院社会学研究科博士後期課程）
第5回（10月20日）	「アフリカの身体表現に関する研究会——エチオピアの事例を中心にして」 本学アート・リサーチセンター共催
第6回（11月10日）	「今日のドイツ経済とEU統合」 Lothar Baar氏（フンボルト大学教授）
第7回（11月16日）	「ハーレムは蘇るか——地域・行政・NPO」 リム・ボン助教授
第8回（12月13日）	「うむい——うたとあしびー奄美・沖縄をうたう——」 玉城利則氏（かじまるの会初代代表，沖縄唄者） 栄 敦志氏（奄美唄者）
第9回（12月17日）	「老年社会学について」 高橋正人教授
第10回（1月21日）	“Single Mothers by Choice? Gender Constrains and the Self Identity of Unmarried Single Mothers in Japan” Carolyn Wright氏（大学院社会学研究科博士後期課程） 「在日朝鮮人社会のチェーサー（祭祀）の社会学的考察」 梁 愛舜氏（大学院社会学研究科博士後期課程）
第11回（1月26日）	「グローバリゼーションの時代における現代ドイツとドイツ社会学」 Richard Grathoff 客員教授

回 日 時	テーマおよび報告者
第12回（2月19日）	「現代アジア美術の論点」 建畠 哲氏（多摩美術大学教授） 後小路雅弘氏（福岡アジア美術館学芸課課長） 本学言語文化研究所共催
第13回（3月23日）	「グローバリゼーションと文化」 島田信吾氏（ドイツ社会科学研究所所員， エルランゲン・ニュールンベルグ大学，哲学博士）